

## 『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎/マガジソハウス

「君たちはどう生きるか？」この問いかけに私は興味を持ち、本書を読み始めました。内容は貧困・いじめ・勇気・学問など、今も昔も変わらないテーマに人間としてどう向き合うべきかが、描かれています。主人公は中学2年生のコペル君。悩みを相談する相手は近所に住む叔父さんです。様々なヒントをもらい、話が進んでいきます。主人公の母は、息子に立派な人間になってもらいたいと思っていますが、その「立派」とはどういうことか。成績が良いことや、友だち思いであることも立派なことではあるけれど、自分自身の生き方をしっかりと考えて行動していくことが最も大切であると気づかされます。そして、自分と向き合い、人生に悩みながら自分なりの決断を下すことが自分の「生き方」に関わることを教えてくれる一冊です。

商業科 西内沙織先生



## 『君の背中を押す言葉』

千田琢哉/日本実業出版社

皆さんは言葉のチカラがどれだけ大きいかわご存知でしょうか？自分の将来の夢、勉強、人間関係、恋愛……。人は日々さまざまな悩みと闘っています。辛くてどうしようもない時、「死んでしまいたい。」と思う時こそ、この本を手にとってほしいです。言葉には人の心を大きく変える要素が含まれています。そして、とても強いチカラも持っているのです。この本は励ましの言葉が書かれてあるわけではありません。自分の人生に関わる重要な言葉がそこにあるのです。「どんなに大きな悩みでも、既に誰かが経験している。」という言葉など、この本の中で心をつたえかねた言葉との出会いがたくさんあります。一度読んでみませんか？

13H

## 『眠れなくなる夢十夜』

阿刀田高/新潮社

あなたにも「忘れられない夢」がありますか。阿刀田高やあさのあつこ、西加奈子などの人気作家が紡ぐそれぞれの夢物語。「こんな夢を見た。」という、夏目漱石の『夢十夜』に出てくる名文句から始まる十人の物語です。見知らぬ種で、いつか訪れるはずの誰かを待つ男。今際(いまわ)の際に現われた、思い出を食べる伝説の動物。生涯の未来予知夢を見た男が、目が覚めたとき、未来を変えた物語など、話の流れを理解するのは少し難しかったですが、読み物としてとてもおもしろい物語ばかりでした。皆さんもぜひ読んでみてください。

8H

## 『さざなみのよる』

木皿 泉/河出書房新社

主人公は、癌で死ぬと言われた女性「ナスマ」。この世を去るにはあまりにも早い年齢の彼女は、死を迎えるにあたりどのようなことを感じたのか、自分が死ぬとわかってから、どのように生きたのかを描いた物語です。人の死を題材にした物語なのですが、読み終えた後はとても前向きな気持ちになりました。死についてすぐ考えさせられる一冊です。この本は2019年の本屋大賞ノミネート作品。皆さんもこの本で大切なものを見つけてほしいと思います。

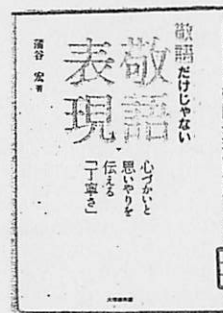
9H

## 『農ガール、農ライフ』

垣谷美雨/祥伝社

「結婚を考えている彼女ができたから、出て行ってくれ。」派遣切りで遭った日、32歳の水沢久美子は同棲相手から突然別れを切り出された。3年前プロポーズを断ったのは自分だったのに。仕事と彼氏と家を失った久美子は、偶然目にした「農業女子特集」というTV番組に釘付けになった。自力で耕した畑から採れた作物で生きる同世代の輝く笑顔。農業のため田舎に引越して、農業大学に入学し、野菜作りのノウハウを習得した久美子は、希望に満ちた農村ライフが待っていると信じていたのだが……。最後にはすべてがわかる仕掛けになっています。読者を満足させる一冊です。気になった方はぜひ読んでみてください。

12H



## 『敬語だけじゃない敬語表現』

蒲谷 宏/大修館書店

皆さんは日本語で丁寧さを求められる時、何を思い浮かべますか？私が最初に思い浮かぶのは敬語です。この本には、なぜ敬語が丁寧言葉なのか詳しく書かれています。例えば、「それ、取って下さい」と「それ、取ってくださいか？」ではどちらが丁寧だと思いますか？この答えと、なぜそれが丁寧だと言えるのか、その理由について本を手にとって読んで確かめて下さい。また、敬語によらない丁寧な言葉遣いについても紹介しています。表現のしぐみを含め、なぜこんな表現が丁寧と言えるのかわかって面白いです。「敬語ってなんだろう？」と思っている人は、ぜひ読んでみてください。

14H

## 『深読み百人一首』

伊東真夏/栄光出版社

私は百人一首の歌を少し知っているぐらいで、全部分かるわけではありません。でも小さい時から百人一首のかるた遊びをするのが大好きでした。そんな人が私以外にも少なからずいると思います。個人的にはそんな人たちにこの本をお薦めしたいと思います。勿論、百人一首を完璧に覚えている人や、そうでない人が読んでも興味を持てる本です。この本はタイトルにも書かれてある通り、百人一首中の和歌に関する事柄が詳しく紹介されていますが、「この歌にはこんなに深い意味が込められていたのか。」と興味深い内容のものばかりです。解説がわかりやすく、スラスラと読みやすくなっていますので、皆さんもぜひ図書館で借りて読んでみてください。

11H



## 『音の晩餐』

林 望/徳間書店

今日インターネットの普及により、電子書籍を利用する人が増えている。一方で、全文を一覧でき、飛ばし読みが可能な点や、紙の手触りが好き等の理由で、紙派の人も多くいるのは確かだ。ただ皆さんの周りにも、ひとりぐらい電子派の人がいるのではないだろうか。今回はそんな人を含め、普段活字に触れる機会のない人にこの本を薦めたいと思う。「音の晩餐」という本だ。この本の特徴は、題名が全て擬音で構成されているところだ。またストーリーが端的にまとめられており、非常に読みやすくなっている。何をしても億劫になる夏にもぴったりの一冊。手に取って見てはいかがだろうか。

10H